

できた！わかった！たのしいよ！パートⅡの刊行にあたって

大阪府立大学教育福祉学類

准教授 里見恵子

発達支援プログラム冊子“できた！わかった！たのしいよ！”ができたのが、平成24年3月でした。それから1年半を経て、応用編ができました。応用編まで作成するとは思っていませんでしたので、発達支援プログラム冊子を、保育士が実践で本当に使った結果であると嬉しく思いました。パートⅡの応用編は、発達支援プログラム冊子を使ってみると、その通りうまくいかなかったという結果から、新たに生まれた支援方法です。“支援がうまくいかないの、あきらめた！”とはならず、“どうしたら支援がうまくいくのか”を現場の保育士が考えた成果です。支援をあきらめない前向きな姿勢が、この冊子を生みました。

また、障がいのある子どもたちへの支援は、3歳児から始まることが多いのですが、乳児期においても、すでにその兆候が見られ、そのことに現場は気づいていました。パートⅡ応用編では、改めて乳児期に焦点をあてたところにも大きな意義があります。保育士が何らかの発達における兆候を見つけた段階で対応することで、保育所への適応や発達を助けることにつながります。この予防的に取り組みを開始しておくことが、対象児の抱える課題を小さくし、保育における保育士や保護者の負担を減らしていくことにつながります。大阪市公立保育所が、このような予防的取り組みに積極的に目を向けていることが、伝わってきました。この冊子の発刊を機会に、乳児保育での予防的な取り組みが広がることを期待します。

今回の冊子では、保護者と共にすすめる支援として、保護者理解のための基礎知識や、保護者と共に作成する個別支援計画と個別指導計画の方法と手順も書かれています。保護者の理解を得て、共に個別支援計画と個別指導計画を作成することを、更にすすめて欲しいと願っています。保護者の理解を引き出し、共に支援ができると、子どもがぐんと成長することは、日頃の保育実践で常々感じているはずです。保育所に在園中に、保護者がわが子の障がいを理解し支援の方法を知ると、その先の教育においても支援を受けやすくし、子どもの生きやすさにつながります。

このパートⅡ応用編を使った、障がいのある子どもの保育実践が広がることを心から期待しています。次には、乳児期における実践例、保護者支援例、発達障がい児以外の障がいのある子どもへの支援の方法についても、まとめていただけたらと思います。

【発達支援モデル研究】

スーパーバイザー 助言者
大阪府立大学

准教授 里見 恵子

モデル保育所

大阪市立	天王寺保育所	東中浜保育所	
	加島第1保育所	加美第1保育所	矢田教育の森保育所
	姫島保育所	大浪保育所	千本保育所

できた！わかった！たのしいよ！パートⅡ
～そう感じることができる保育を～

発行 大阪市こども青少年局保育施策部保育所運営課
大阪市北区中之島1-3-20
電話 06-6208-8120
FAX 06-6202-9050

平成27年3月

